

STRIDERS REPORT

2022. 4. 1~2022. 9. 30



株式会社ストライダーズ
第59期中間期 株主通信
証券コード 9816



「MAGO GALLERY KURASHIKI」倉敷ロイヤルアートホテル地下1階

TOP MESSAGE



代表取締役社長&CEO

早川 良太郎

Well-beingの観点から経済・社会的な価値の創造に邁進

株主の皆さまには平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2023年3月期中間期は、不動産事業ではレジデンス事業において増収を確保したものの売上総利益は減少、売買取引は低調なまま推移しました。ホテル事業では成田ゲートウェイホテルの新型コロナウイルス感染症の軽症者向け施設としての貸し出しは継続、倉敷ロイヤルアートホテルでは稼働率が前年同期比で大きく改善しました。海外事業は前年同期までの広告代理店事業の赤字がなくなったものの投資事業の貢献はまだ先の状態です。その結果、売上高は3,587百万円（前年同期比3.9%減）、営業利益は26百万円（前年同期は△67百万円）、経常利益は95百万円（前年同期比88.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は41百万円（前年同期比9.6%減）を計上しました。

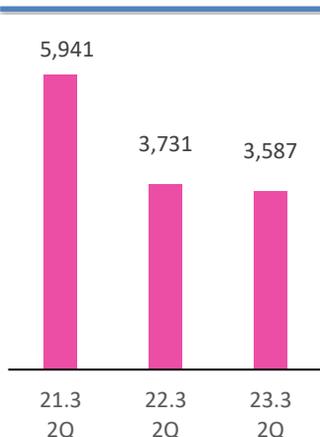
下期以降、世界情勢は引き続き不安定ではありますが、コロナによる外出制限の緩和や訪日外国人旅行者の増加に伴う、不動産・ホテルセグメントへの好影響を鑑みながら、新たな事業投資先・業務提携先などを検討してまいります。また、Well-beingの観点から経済・社会的な価値の創造に邁進し、すべてのステークホルダーと共創連携を図ってまいります。

株主の皆様にはより一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

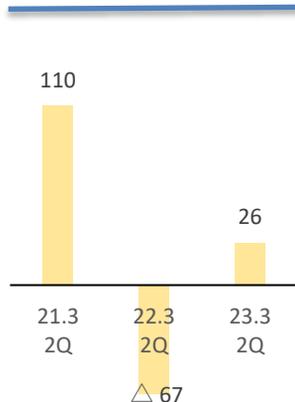
決算ハイライト（単位：百万円）

2023年3月期の通期業績は、売上高7,251百万円、営業利益67百万円、経常利益160百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益104百万円を見込みます（2022年11月11日発表の業績予想修正に基づく）。

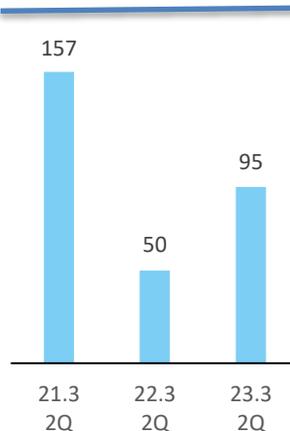
売上高



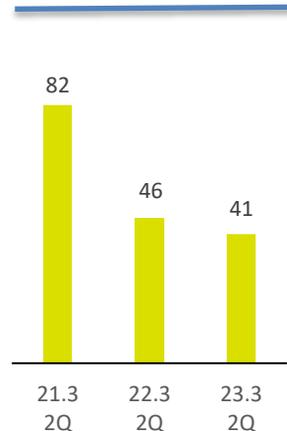
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する 四半期純利益



貸借対照表・キャッシュフロー計算書について

(百万円)	2021.3	2022.3	2022.9	22.3 22.9 比較
資産合計	5,230	4,789	4,639	△150
流動資産	3,367	3,046	2,881	△165
固定資産	1,862	1,743	1,758	+15
有形固定資産	1,317	1,223	1,180	△43
無形固定資産	126	115	110	△5
投資その他の資産	418	404	468	+64
負債合計	2,909	2,338	2,198	△140
有利子負債	1,591	1,379	1,284	△95
純資産合計	2,321	2,450	2,441	△9

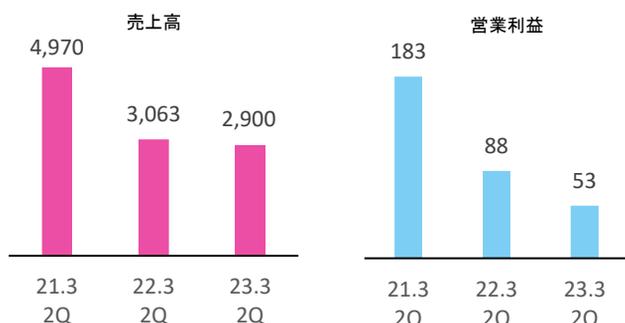
(百万円)	2021.4 - 2021.9	2021.10 - 2022.3	2022.4 - 2022.9
営業活動による キャッシュ・フロー	△117	149	69
投資活動による キャッシュ・フロー	△88	5	△67
財務活動による キャッシュ・フロー	△133	△112	△148
現金及び現金同等物 の増減額	△336	53	△133
現金及び現金同等物 の期首残高	2,682	2,346	2,399
現金及び現金同等物 の四半期末残高	2,346	2,399	2,266

セグメント業績について (単位：百万円)

■不動産

事業内容：レジデンス事業（リーシング、賃貸管理、マンション建物の受託管理）、不動産売買事業

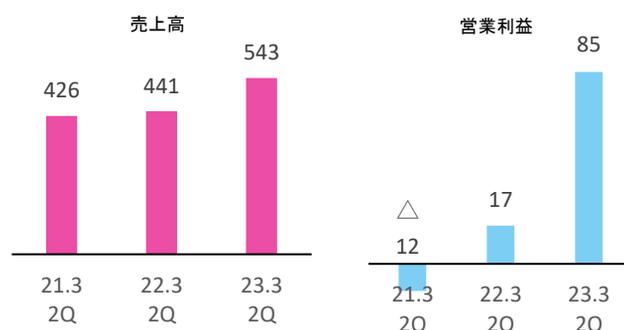
- ✓ レジデンス事業においては管理戸数やサブリース賃貸借契約の賃料水準、稼働率、更新率等に大きな変化はなく、増収を確保した一方で売上総利益は減少。不動産売買事業における投資用マンションの売買取引が減少。
- ✓ DXの推進に向けて、体制を整備



■ホテル

事業内容：ホテルの保有・運営事業

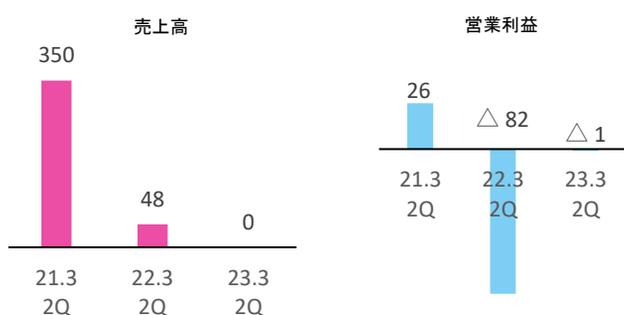
- ✓ 成田ゲートウェイホテルは、新型コロナウイルス感染者の無症状者・軽症者を2020年4月より継続して受け入れ。療養施設運営に関して、一部の業務を受託し、売上に寄与。
- ✓ 倉敷ロイヤルアートホテルは、全国旅行支援やインバウンド再開などを受け回復基調。



■海外

事業内容：アジア圏を中心とした投資事業等

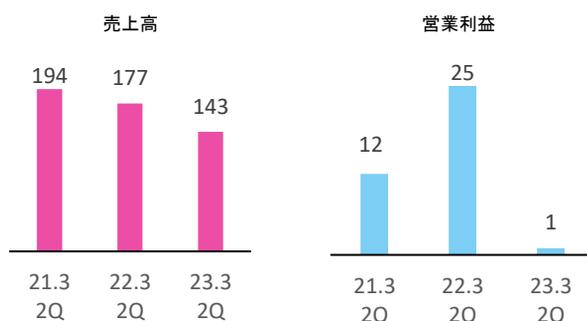
- ✓ 中長期的な目線でスタートアップ企業に投資をしており、売上計上はまだ先。
- ✓ スリランカに所在する企業2社 (Roar, Agrithmics) への投資について、同国の経済危機の影響は、現時点でコントロールの範囲内。



■その他

事業内容：車載端末システムの開発・販売、M&Aに関するコンサルティング業務、国内における投資など

- ✓ モバイルリンクでは、半導体不足及び原油高の煽りを受け、売上減少
- ✓ MAGPIは、案件獲得に向けた取り組みを継続



ストライダーズグループについて

当社グループは、事業投資・不動産事業を軸に日本、シンガポール、インドネシア、スリランカなどの島国を中心に事業展開してまいりました。現在、事業セグメントは、不動産・ホテル・海外の主要3セグメントとその他の4つに分かれています。



主な事業内容：事業投資、グループ経営管理

<各セグメントの主な事業内容>

不動産事業

レジデンス事業
不動産売買事業

ホテル事業

成田ゲートウェイ
ホテルの
所有・運営

倉敷ロイヤル
アートホテルの
所有・運営

海外事業

海外投資事業

その他

車載端末システム
の開発・販売

企業再生再編

中華麺等の
製造・販売

< 主な国内グループ会社 >



< 主な海外グループ会社 >



海外事業のニュース・トピックス

■東南アジアでデジタルヘルスサービスを提供するスタートアップ企業に出資

当社は、2022年6月、子会社であるStriders Global Investment Pte. Ltd.（本社：シンガポール、Director: Nelaka Haturusinha）を通じ、東南アジアで慢性疾患患者向けのデジタルヘルスサービスを提供するスタートアップ企業 Naluri Pte. Ltd.（本社：シンガポール、CEO: Azran Osman-Rani、以下「Naluri社」）に出資しました。



Naluri社は、糖尿病やメンタルヘルスなどの慢性疾患を持つ方に対して、スマートフォンアプリを経由して、オンライン上で医療専門家に相談するプラットフォームを提供するとともに、AIや最新のテクノロジーを活用しながら、個々人に合わせた医療プログラムを提案します。同社のサービスの特徴は、人間によるコーチングとAIによる行動サポートテクノロジーを組み合わせている点で、優れた医療成果を実現するとともに、雇用主の健康関連コストを削減するサービスとしても高い評価を受けています。

当社は今後、パートナーとの連携を強化しながら同社の南アジアや日本での事業拡大をサポートする予定です。本出資の背景には、当社として南アジアと東南アジアの人々のウェルビーイングに貢献する事業への投資を拡大させたいという思いがあり、特に今後も成長が見込まれるヘルステック業界において、積極的に投資を検討してまいります。

■ウェビナー「スリランカの危機と進むべき道」実施

当社は2022年8月31日（水）に駐日スリランカ大使館、スリランカの大手コングロメリット傘下の証券会社Softlogic Stockbrokers (Pvt) Ltdと共同で、ウェビナー「スリランカの危機と進むべき道」を開催し、日本の事業会社担当者様を中心に約75名の方がご参加くださいました。

基調講演では、スリランカ中央銀行総裁のナンダラル・ウィーラシンハ氏にご登壇いただき、経済危機に関しての最新の状況やスリランカが今後進むべき道について、ご案内いただきました。また、Softlogicグループ担当者によるスリランカ経済危機に関する解説や、会長のアショカ・パティラゲ氏との質疑応答を通じて、今回の経済危機の要因と今後に向けた取り組みについて、ご理解を深めていただく機会になったことと存じます。今後もスリランカの現地パートナーとの連携を通じ、スリランカの現地情報や投資機会などをご案内してまいります。



基調講演：スリランカ中央銀行総裁
ナンダラル・ウィーラシンハ氏

■女性起業家向けピッチコンテスト「She Loves Tech 2022 Japan」にコミュニティパートナーとして参画

当社は、2022年9月、世界最大の女性企業家向けピッチコンテスト「She Loves Tech 2022 Japan」に2年連続でコミュニティパートナーとして参画し、子会社であるStriders Global Investment Pte. Ltd.（本社：シンガポール 以下「SGI」）の取締役、Nelaka Haturusinha（ネーラカ・ハツルシンハ）が最終ラウンド（2022年9月20日実施）の審査員として参加しました。今後も女性起業家の支援や活躍の推進に取り組むことで、男女問わず起業に挑戦できる社会を目指してまいります。また、近年、主に東南アジアにおいて展開する投資事業のさらなる拡大のためにも、ピッチコンテストの運営に継続的に関わり、ベンチャーキャピタルや投資家・起業家とのネットワークをより強化してまいります。

■株式会社八芳園と連携協定を締結～倉敷ロイヤルアートホテルにおいて共同で取り組みを推進～

当社は2022年6月に株式会社八芳園（本社：東京都港区、取締役社長：井上義則）と連携協定を締結しました。双方の抱える課題解決と発展、および人材育成に関する取り組みの推進を目的とし、具体的には当社グループの「倉敷ロイヤルアートホテル」において、地域の特性を活かしたイベントの企画、食に関する商品開発などに共同で取り組んでまいります。日本の魅力を世界へと発信し続けてきた八芳園のノウハウとリソースを元に、新たな価値創造に取り組んでまいります。

HAPPO-EN
TOKYO

■メディア掲載情報

2022年12月、株式会社矢動丸プロジェクトが企画・運営する事業承継総合メディア「賢者の選択サクセッション」にて、当社の代表取締役社長・早川良太郎のインタビュー記事・動画が掲載されました。事業承継をテーマに、社長就任にいたるまでの想い、就任後の歩みなどを述べておりますので、以下リンクよりぜひご覧ください。

事業承継総合メディア「賢者の選択サクセッション」

<https://kenja-succession.com/articles/tag/interview/>

Youtube チャンネル「賢者の選択サクセッション」

<https://www.youtube.com/watch?v=VDxqcCzwrz0>

■表紙写真について

倉敷ロイヤルアートホテル地下1階には、美術家・長坂真護氏の作品を展示・販売するギャラリー「MAGO GALLERY KURASHIKI」がございます。ホテル利用者以外も鑑賞可能（無料）ですので、ぜひお近くにお越しの際はお立ち寄りください。

MAGO GALLERY KURASHIKI

https://www.striders.co.jp/csr_sdgs/athlete/mago_gallerykurashiki.html

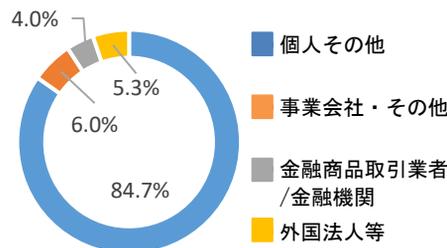
株式関連情報

■株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月末日まで
定時株主総会	毎年6月
株主確定基準日	毎年3月末日
剰余金の配当の基準日	毎年9月末日、毎年3月末日
株式の売買単位	100株
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
同連絡先	〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 フリーダイヤル：0120-782-031 (受付時間 土・日・祝祭日を除く9時～17時)

■株式分布状況・株式の状況

(2022年9月末日現在)



発行可能株式総数	18,000,000株
発行済株式総数	8,912,089株
単元株式数	100株
株主総数	4,188名

※1 当社は、自己株式を483千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しています。
※2 株主分布状況における比率、大株主の持株比率は自己株式（483,569株）を控除して計算しています。

■大株主（上位10名）

(2022年9月末日現在)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
新興支援投資事業有限責任組合	1,529	18.15
早川 良一	483	5.74
KGI ASIA LIMITED-CLIENT ACCOUNT	358	4.25
株式会社 ジャパンシルバークリール	322	3.83
福光 一七	181	2.16
大阪ランド株式会社	100	1.19
尾澤 正人	80	0.96
楽天証券株式会社	80	0.95
森川 いくよ	75	0.90
株式会社SBI証券	73	0.87

会社情報

■会社概要

社名	株式会社 ストライダーズ（英語名：Striders Corporation）
本社	〒105-0004 東京都港区新橋5-13-5 新橋MCVビル8階
設立	昭和40年2月
資本金	1,585百万円
事業内容	不動産事業、ホテル事業、海外事業、その他
上場市場	東京証券取引所 スタンダード市場（コード番号：9816）
連結売上高	7,505百万円（2022年3月期）
連結従業員数	141名（2022年3月末日現在）

■企業理念

挑戦する個人・企業を応援し、すべてのステークホルダーと感動体験を共有し、より良い世界を創造する

■コーポレートスローガン

Stride With Challengers “挑戦者達と共に闊歩する”

■役員一覧

代表取締役社長	早川 良太郎
取締役会長	早川 良一
常務取締役	宮村 幸一
取締役	梅原 純
社外取締役	鈴木 泰
常勤監査役	吉澤 生雄
監査役	亀井 孝衛
監査役	本田 琢磨



STRIDERS

(2022年11月末日現在)

■社名・企業ロゴについて

当社の社名「ストライダーズ」には、時代に先駆け、闊歩する（「ストライド」）集団という意味が込められています。また、企業ロゴの右上がりには伸びていく線は、常に「困難に立ち向かう」「障害を越えていく」という精神を表現しています。